

1. (1) $\angle AOB=90^\circ$ 円Rの面積 $\cdots(8-4\sqrt{3})\pi\text{ cm}^2$

(2) $\frac{48}{19}\pi\text{ cm}^2$ (3) $\frac{64}{7}\pi\text{ cm}^2$

解説▶

(1) 4点B, A, D, Cを通る断面は、図1のよう

になる。円Qの半径を $q\text{ cm}$ とすると、 $\pi q^2=8\pi$ より、 $q=2\sqrt{2}$

よって、 $AB=2\times 2\sqrt{2}=4\sqrt{2}$ だから、 $\triangle OAB$ の3辺の比は、

$OA:OB:AB=4:4:4\sqrt{2}=1:1:\sqrt{2}$ したがって、 $\triangle OAB$

は直角二等辺三角形だから、 $\angle AOB=90^\circ$ 次に、点Dから線分

OCに垂線DFを引き、円Rの半径を $r\text{ cm}$ とする。 $AD=2\times 2=4$

より、 $OA=OD=AD$ となるから、 $\triangle ODA$ は正三角形であり、

$\angle AOD=60^\circ$ だから、 $\angle DOF=180^\circ-90^\circ-60^\circ=30^\circ$ これより、 $\triangle DOF$ は3辺の比が $1:2:\sqrt{3}$ の直角三角

形となるから、 $DF=\frac{1}{2}OD=2$ 、 $OF=\sqrt{3}DF=2\sqrt{3}$ よって、 $\triangle DFC$ で三平方の定理より、 $(2r)^2=2^2+(4-2\sqrt{3})^2$

が成り立つ。これを r^2 について解くと、 $r^2=8-4\sqrt{3}$ となるから、円Rの面積は、 $\pi r^2=\pi\times(8-4\sqrt{3})=(8-4\sqrt{3})\pi(\text{cm}^2)$

(2) 円Qと円Rの面積の比が9:4であることより、 $\pi q^2:\pi r^2$

$=9:4=3^2:2^2$ だから、 $q:r=3:2$ これより、 $AB:DC=3:2$

だから、 $AB=\frac{3}{2}DC=\frac{3}{2}\times 2r=3r$ また、図2のように、線分

ACと線分BDの交点をEとすると、 $\angle ABE=\frac{1}{2}\angle AOD=30^\circ$ 、

$\angle BAC=90^\circ$ より、 $\triangle EAB$ は3辺の比が $1:2:\sqrt{3}$ の直角三角形

だから、 $AE=\frac{1}{\sqrt{3}}AB=\frac{1}{\sqrt{3}}\times 3r=\sqrt{3}r$ 同様に $\triangle EDC$ も3辺

の比が $1:2:\sqrt{3}$ の直角三角形だから、 $EC=\frac{2}{\sqrt{3}}DC=\frac{2}{\sqrt{3}}\times 2r=\frac{4\sqrt{3}}{3}r$ よって、 $AC=AE+EC=\sqrt{3}r+$

$\frac{4\sqrt{3}}{3}r=\frac{7\sqrt{3}}{3}r$ だから、 $\triangle ABC$ で三平方の定理より、 $(3r)^2+(\frac{7\sqrt{3}}{3}r)^2=8^2$ が成り立つ。これより、 $r^2=\frac{48}{19}$ とな

るから、円Rの面積は、 $\pi r^2=\pi\times\frac{48}{19}=\frac{48}{19}\pi(\text{cm}^2)$

(3) 線分ODが線分OAと重なるまで、 $\triangle OCD$ を点Oを中心に反

時計まわりに回転させると、図3のようになる。 $OQ:OR'=$

$OQ:OR=2:3$ だから、 $OQ=2t(\text{cm})$ 、 $OR'=3t(\text{cm})$ とおける。

2点C', Qからそれぞれ線分OC, OR'に垂線C'H, QIを引く。

$\angle C'OH=60^\circ$ 、 $\angle C'BH=30^\circ$ より、 $\triangle C'OH$ 、 $\triangle C'BH$ はとも

図1

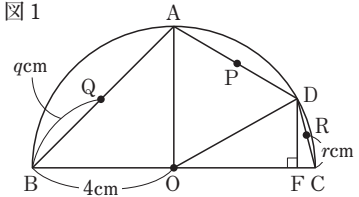


図2

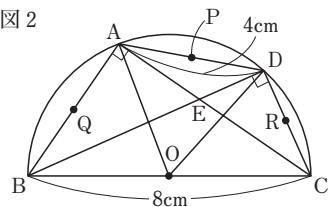
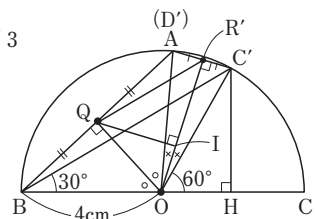


図3



に3辺の比が $1:2:\sqrt{3}$ の直角三角形だから、 $OH=\frac{1}{2}OC'=2$ 、 $BC'=\frac{2}{\sqrt{3}}BH=\frac{2}{\sqrt{3}}\times 6=4\sqrt{3}$ さらに、
 $\triangle ABC'$ で中点連結定理より、 $QR'=\frac{1}{2}BC'=\frac{1}{2}\times 4\sqrt{3}=2\sqrt{3}$ また、 $\angle QOR'=\frac{1}{2}\angle BOC'=\frac{1}{2}\times 120^\circ=60^\circ$
より、 $\triangle QOI$ も3辺の比が $1:2:\sqrt{3}$ の直角三角形だから、 $OI=\frac{1}{2}OQ=t$ 、 $QI=\sqrt{3}OI=\sqrt{3}t$ 、 $IR'=3t-t=$
 $2t$ よって、 $\triangle QIR'$ で三平方の定理より、 $(\sqrt{3}t)^2+(2t)^2=(2\sqrt{3})^2$ が成り立ち、 $t^2=\frac{12}{7}$ これより、 $\triangle OQB$ で、
 $QB^2=4^2-(2t)^2=16-4t^2=16-4\times\frac{12}{7}=\frac{64}{7}$ となるので、円Qの面積は、 $\pi\times QB^2=\pi\times\frac{64}{7}=\frac{64}{7}\pi$ (cm²)